

自然観察 NOW

NO : 29

野幌森林公園自然情報

発行 : 2018年5月12日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



落葉広葉樹の林床

今、野幌の森の林床は一年中で一番輝いています。太陽の光が降り注ぎ明るい。春の花たちが咲きほこり賑やかです。間もなく木々は芽吹き、葉のテントで覆い尽くされます。光が降り注ぐ今だから見られる命輝く野幌の森の景色です。

木の名前と人の生活とのつながり

木の名は人がつけました。生活の中でその様に呼んでいたのが始まりでしょう。人と木の深いつながりの証です。



カツラ

学名 : *Cercidiphyllum japonicum* Sieb. t Zucc

学名の種名が *japonicum*。カツラは日本の名木です。英語でもカツラ・ツリーで通用します。

今、野幌のカツラは、芽出しと花の時期です。カツラの梢が紅色に色づいていますから、それと分かります。カツラは雌雄異株です。高い梢に花がつきますから雌雄はわかりにくい。強風のために落ちた袋果を見て、これは雌株だということが分かります。落葉した時期、雌の木の梢には袋果がイッパイついているのが見られますから、雌株だと分かります。

カツラの語源は香出（カツ）といわれます。そのため地方名が豊富です。人とつながりが深い木です。

<コウノキ・マッコノキ・オコーノキ・オコノキ>

夏から秋にかけて葉を採取し乾かし、粉にしてお香をつくるのでコウノキの地方名が宮城、山形、福島、新潟、長野の各県にあります。青森、秋田の両県ではマッコノキ、岩手県ではオコーノキ、長野県ではオコノキなどともいいます。

<ショウユノキ・ショウユギ・ショウヨノキ・ショウユダンゴノキ・ミソノギ> 落葉が醤油に似た香りを発散するところから、長野・岡山の両県ではショウユノキ、新潟県ではショウユギ、ショウヨノキ、山形県ではショウユダンゴノキ、ミソノギなどとよんでいます。

※匂い物質はマルトール。落葉したカツラの葉が発酵して生じるという説があります。

<ミズノキ>カツラの木の下を掘れば水がわき出るといわれるほど水分を好む。そのため神奈川県丹沢山地ではミズノキの名で呼ばれている。

よく萌芽し、しばしば株立ちとなります。

★今日の観察ポイント

- 1, <カツラの木> 赤い芽吹きが見られたかな。
- 2, カツラとヤチダモの雄株 と雌株が分かったかな。
- 3, ハンノキが見つけれられたかな



カツラの雄花



カツラの雌花



カツラの袋果



まっすぐな樹幹
ヤチダモ

ヤチダモ

学名：*Fraxinus mandshurica* Rupr. *Var. japonica* Maxim

ヤチダモは芽吹きが遅いです。遅霜の害を避けるには有利です。雌雄異株の木です。果実をつけた柄が残っているのが雌の木です。雄の木には見られません。日本産の広葉樹のなかで、もっともまっすぐで、枝下の長い樹幹をもつのはヤチダモでしょう。高さ25メートル、直径1メートルにもなる落葉高木。北海道では植林も行われています。

種名は *japonica*。「ヤチ」は、谷地または野地と書き、湿地のことです。

「タモ」は、霊＝タマの意とする説と、トネリコの仲間は

材が極めてねばり強く曲げても折れない「撓（タ）む木」であるからタムキ→タモノキ→タモとなったという説があります。※「撓」～訓読みでは、「撓わむ（タわむ）」

湿地の多い野幌の森には見事な大木が見られます。植林もされています。水のつきやすい所にハンノキ、あまり水のつかない所にハルニレ、その中間の所にヤチダモが生えています。ヤチダモは湿潤ではあるが年中水位の高いところではなく、時には適潤状態が続くような場所でよく育ちます。

ヤチダモは森の中でも背の高い木です。そこで、森の守り神のフクロウはこの木の上で、人間界に悪魔が近づくのを見張ったというコタンの伝説があります。

★優れた材質は評価が高いです。建築材、家具材、器具・運動用具（特にバット材）として優れています。



雌株



雄株



早春のハンノキ

ハンノキ

学名：*Alnus japonica* Stend

ハンノキの名の起りは定かではありませんが、田圃の畦に植えられ、秋には稲架がけ（ハサガケ）に利用しましたから、米作を中心としてきた日本の田園風景を特徴付ける木です。

文学作品にも登場します。三島由紀夫の『金閣寺』には、「畦のまばらな立木は、高低も大小も思い思いで、枝葉は高みに刈り込まれ、細い幹がいずれもこの地方で蒸籠と呼ばれる積藁で囲まれているので、それらが順繰りに霧の中から現れるさまは、木々の幽霊のようであった」と、晩秋の車窓を描写するのは京都から保津峡を過ぎたあたりの丹波路ですが、これもハンノキでしょう。

ハンノキは湿地に強い木です。年中水が浸るところでも育ちます。根には根粒菌を持ちます。葉の芽吹きは、1枚目、2枚目、3・4枚目と順番に出ます。1・2枚目は短命で、夏には葉を落とします。ですから、土地を肥沃にする働きがあります。野幌の森はハンノキが多いです。野幌の森は湿地が多いからです。

観察会案内

- 5月20日（日） 恵庭公園観察会 10:00～12:30 恵庭公園中央駐車場集合・解散
- 5月25日（金） 藻岩山登山観察会 10:00～14:30 慈啓会病院前登山口集合・解散
- 5月27日（日） ワォーの森観察会 10:00～12:00 小樽市桂岡春香山登山口集合・解散
- 6月3日（日） 森の新緑観察会 10:00～12:30 自然ふれあい交流館集合・解散

<参考とした図書など> ・朝日百花「世界の植物」・「おもしろい木の話」（北海道林業改良普及協会発行）
・平凡社「樹木図鑑」・カツラの雄花、雌花の写真は皆川氏の自然情報より

文責：春日 順雄